

に
び
色
の
岩

雑まき
賀が
聖せい

登場人物

主婦	27才
強盗	16才
借金取り	41才
情婦	32才
サークル	28才
押売り	45才

どこにでもあるごく普通の家庭の居間。ドアを隔てて下手側は玄関になっており、玄関のドアが見えている。居間と玄関での声は互いに聞こえない。主婦が長椅子のソファに寝そべって電話をかけている。

主婦 モシモシ……ア、営業の佐藤ですがいつもお世話になっております。アノ、おりますでしょうか……ハイ、いつもすいません……モシモシ、あなた？ 私。今何してんの……仕事？ ハハハ、ゴメンな、おかしい。で、私はどうしてるのかしら。どうかな？ ヘヘヘ、あててごらん。フフ、今ね、私のそばにいい人がいるの。あなたのよく知っている、ア、いや、くすぐりたい。ハハハ、どうですか……え？……嘘だって？ おっしゃいますなあ、ホホ、出そうか……無理すんなよオ、え？ ナハハハハ、あなた今日お帰りは？……そう、ア、それからね。あなた？ 私今一人じゃないのよ！ あなた！ 一人じゃ。

電話は切れたらしい。
主婦、受話器を置く。

主婦 一人じゃないんだ。

主婦、ダイヤルを回す。

主婦 (一方的に) モシモシ、月村さんのお宅ですか？ 私、大橋さんのご紹介でこのたびお坊ちゃまの家庭教師をやらせて頂くことになりました柴です。早速ですが今日四時半にそちらに伺いますのでよろしく……え？ お聞きになっていない。それはおかしいですね。おかしいですよ。

と電話をきる。

主婦 おかしいですよん。

と言いながらまたダイヤルを回す。

主婦 (一方的に) モシモシ、吉岡様のお宅ですか。私、田中ですけれど、今度新しくお宅のそばに出来る幼稚園についてご相談したいことがありますので今日四時半にお邪魔します。……え？ どちらの田中かって？ それはどうでもよろしいんです。とにかく幼稚園のこ
とを考えといて下さいね。

と電話を切る。

主婦 考えといて下さいね。

と言いながらまたダイヤルを回す。

主婦 (一方的に) モシモシ、こちら水道局ですが、今晚七時から明朝九時まで断水しますので給水をよろしく……ええ、七時からです。ネ、給水をよろしく。

主婦、電話を切る。

主婦 給水をよろしくね。

と言いながらまたダイヤルを回す。

主婦 モシモシ、こちら電報電話局ですが、

というところで玄関のベルが鳴る。

主婦 アラ、アノ、間違えました。

と電話を切って玄関に向かう。

主婦 誰かしら、牛乳少年かな、クリーニングキッドかな、それとも誘惑新聞かも。

主婦が下手の玄関のドアを開けた途端、カバンを下げたセーラー服の女子高校生が飛び込んで来る——強盗。

強盗 追われているの、助けて！

というが早いか自分でドアを閉める。

強盗 カ、カギどれ！ これね。

と主婦の指摘を待たず鍵をかける。

強盗 これで閉まった？ もう開かない？

主婦 下にチェーンもあるわ。

強盗 どれ！ ああ、よし。（とチェーンもかける）これで安心？

主婦 保証します。

強盗 外から誰も入れない？

主婦 ダイナマイトでも使わない限りね。

強盗、ポケットから飛び出しナイフを出す。

強盗 金出して。

主婦 ……そういうこと。

強盗 悪いけど。

主婦 セーラー服で、よくやるわね。

強盗 そこがミソさ。改造してあるからどの学校か分らないよ。

主婦 今悪いことしておくと将来きついな。

強盗 理屈はいいの。体で勝負さ。

主婦 オ？ 勝負してみる？

と空手の構えをみせる。

強盗 遊んでる暇ないんだよね、意外と。上がらしてもらおうよ。

強盗、靴を脱いで主婦をナイフで脅しながらズカズカと居間に入る。

主婦 本気みたい。お茶でも入れようか。

強盗 いいんだよ、気遣わなくて。貰うもん貰ったらサッサと帰るから。早く出すもん出して。

主婦 い、いくら欲しいの。

強盗 そんなのこっちが決めることじゃないだろう。気持だよ。気持。

主婦 そう、気持だけで良いのね。じゃ。

とポケットから二千円を出して渡す。

強盗 これでまとも？

主婦 一応ね。

二人、あきれて笑う。

強盗 (金を叩きつける) 誠意だよ、誠意！ よく考えて。こっちだって危い目して一生懸命

やっぺんだから。

主婦 一生懸命だけなら運動会になっちゃうでしょう。

強盗 私が猿だって!?

主婦 ゴメンゴメン、クールにならなくちゃ。ナイフなのよね。ナイフ、よく斬れる？

強盗 いい刃してるよ。

主婦、強盗からナイフを借りて試す。

主婦 痛！

指先が少し斬れたらしい。

主婦 クールね。(とナイフを返す)

強盗 これよ。

と受け取った瞬間、二人はハッとす。

主婦 了、ちょっと、もう一回貸して。

強盗 貸すと思う？

主婦 思わない。(自分に)畜生。

強盗 若さだよ。かわいいよ。サ、早くすましちゃおう。人生はそれからさ。

主婦、テレビのスイッチを入れる。

強盗 関係ないことすんなよ。(と慌てて消す)

主婦 こ、恐くなるとテレビつけるくせがあるの。ホラ、台風の日や夜一人でいる時なんかね、

あなたも経験あるでしょう。

強盗 私はテレビに沢山の物語を与えて来た。しかしテレビは私に何もくれなかったよ。

主婦 じゃ、今、頂きましょう。(とまたテレビのスイッチを入れる)

強盗 いいよ、そんなの。(とスイッチを消す)

主婦 いいからいいから、無理しないで。(とスイッチを入れる)

強盗 うるさいんだよ、これが。(とスイッチを消す)

主婦 そんなことないって。(とスイッチを入れる)

強盗 やめなよ。(とスイッチを消す)

主婦 私のテレビよ!

強盗 それがどうしたい。

主婦 勝手に消さないで!

強盗 自分の趣味を人に押しつけるんじゃないよ!

主婦 あなたはお金と一緒に私の人生まで奪う気!?

強盗 おおげさだよ。たかがテレビぐらいで。

主婦 その『たかが』から始めるしかないだろう。

玄関のベルが鳴る。二人、ハッとして黙ってしまふ。

もう一度玄関のベルが鳴る。

強盗 誰、友達?

主婦 多分ね。

強盗 居留守使えない?

主婦 そんな器用なことできないわ。

またベルが鳴る。

強盗 どうしようか。

主婦 出るわ。

強盗 よし、適当なことって追いついた。ただし変なマネしたら承知しないよ。暴れるから
ね。

主婦 分ってるわよ。(と行きかける)

強盗 待って……クールにね。

主婦 (Vサインを送って) まかしといて。

と居間を出る。強盗慌ててドアを閉める。

またベルが鳴る。

主婦 ハイハイ、今開けますよ。どうもお待たせ。

と玄関のドアを開ける。

中年の女が立っている——借金取り。

主婦 しました……アノ、どちら様ですか。

借金 知らばっくれないで。奥様ですか、初めまして、私、東西ローンの者ですが、ご主人に
ご利用頂きました家庭生活短期充実ローンの返済期限がとうに過ぎておりますのでお取り
立てに参りました。

と上がり込む——靴はすでに脱いでいた。

主婦 アノ、私、主人から何も聞いておりませんので。

借金 といって追いつ返せというご主人の指示なのですね。受けて立ちましょう。失礼。

と上がり込む——靴はすでに脱いでいた。

主婦 ア、アノ、今、大事なお客様が。

借金 それは好都合ね。ご主人のご誠実さを聞いてもらいましょう。

と主婦を振り払って居間に入ってしまう。

強盗 (ビックリしてナイフを隠し、主婦に) クールに……いったらう！

主婦、慌てて強盗を引っ張り出して居間のドアを閉める。

主婦 シャ、借金。

強盗 え？ 借金？

主婦 アウ、い、いいえ、しゃきつとしてるでしょう、あの人。

強盗 そういえば。

主婦 学校の先生よ。

強盗 ええ!?

主婦 学生時代の友達なの。

強盗 ヤバイじゃん。

主婦 ヤバイはよう。

強盗 参ったなあ。

主婦 参ったね。じゃまた。

と玄関のドアを開ける。

強盗 でも帰らないよ。若者だもん。

主婦 アララ。

強盗 とにかく金貰わなくちゃ。

主婦 情熱?

強盗 燃えてんだから。

主婦 かなわないな。

と玄関のドアを閉める。

強盗、勇んで居間に戻る。

主婦、慌てて後を追う。

借金 何ですか。入った途端いきなり二人で席をはずすなんて。随分あざといじゃない。

強盗 ちょっとおねだりしてたんです。

借金 この方は?

主婦 姪ですの。気にしないで下さい。真面目な高校生ですから。

強盗 こんにちは。

主婦 社会問題研究会に入ってるのよ。今、悪質金融業者摘発運動をしてるんですって。

借金 ちょっと! それ、出来過ぎじゃない!

強盗 私、あんまり出来ないんです。特に数学が。

借金 数学なんかいいのよ!

強盗 でも、国語や社会は頑張ってます。

借金 頑張ればいいでしょう、社会暴いて。こっちだって生活かかってんだから。

強盗 何か、機嫌悪いみたい。

主婦 悩んでるのよ、お仕事のこと。お茶でも入れましょう。

主婦、上手側のドアから退場。

残された二人は何となく居づらい。

強盗、話しかけようとするが借金取りの方でパイと横を向いてしまう。

強盗、仕方なくカバンから勉強道具を取り出すが中から出て来たのは、週刊誌、弁当箱、人形、パチンコ、サングラス等勉強に関係のないものばかりなので急いでしまいい込むと何か読むものはないかと部屋を見回す——もちろんこの主婦の部屋に教養はない。

借金 アノ。

強盗、慌てて傍にあった電話帳を開く。

借金 お勉強、大変ですか。

強盗 ええ。でもこれしかやることないから。

借金 電話帳まで読まなくちゃならないんですか。

強盗 社会問題研究会ですから。

借金 やっぱりねえ。で、アノ、彼女、私のこと何かいってらした？

強盗 ええ、とても熱心な方だと。

借金 熱心？ そういえば、まあそうですね。

強盗 でも厳しいんですって？

借金 そ、そりゃあ厳しくもなりますわよ。

強盗 お仕事ですからね。

借金 私、決して悪質じゃないのよ。

強盗 分ってます。悪い奴はよたってます。

借金 相手の立場も考えてるつもり。

強盗 結構いい先生みたい。

借金 いい先生？

強盗 優しそうで。

借金 いい先生……そう、私にも昔はそんな夢があったんだわ。いい先生……誰からも愛され、誰からも慕われ、誰からも尊ばれる優しい、いい先生になろうっていう……学校ごっこが好きでね。子供の時、近所のガキを集めて物置小屋で塾を開いていたの。新聞の折り込みチラシの裏にテスト問題書いたりしてね……風は誰の命令で動いているのですか。虹を見るためにはどうしてさ濡れにならないかならなければならぬのですか。トマトと赤かぶの違いを三〇字以内で説明しなさい。大きな声を出した後、なぜ涙が出て来るのでしょうか。お勝手窓の下にはなぜ去年の木の葉が落ちていいるのでしょうか。人はどうして自分の思った通りの人になれないのでしょうか……

強盗 採点が大変だったでしょうね。

借金 まだ採点してないわ。答案用紙が押入れにいっぱい……だから私は近所の子供達から先生、先生って尊敬されていたんです。昼も、夜も、先生、先生、先生、先生ってね。ア、誰からも愛され、誰からも慕われ、誰からも尊ばれる人にならなければいけなかったのに、実際は、誰からも憎まれ、誰からも蔑まれ、誰からも、とにかくひどいことばかり。

強盗 そうご自分を卑下なさることはありませんわ。ご希望通りの職業についてるんじゃないやありませんか。

借金 こんな仕事を希望する人がどこにありますか。こんな嫌味な。

強盗 そりゃあ私はともなれないけど。

借金 当然よね。他人苦しめて、私何やってんだらう。

強盗 誰だって苦しんで成長して行くんだわ。私などいつもあなた方に苦しめられてばかり。

借金 まあ、あなたも利用者ですか。

と強盗の手をとる。玄関のベルが鳴る。と同時にまるで待機していたかのように主婦が濡れた手を服にこすりつけながら上手から出て来る。

主婦 ハイハイ、ハイハイ、今開けますよ。

借金 随分丁寧なお茶の入れ方ね。

主婦 トイレよ。お忙しい。手も洗わせてくれないんだ。(と玄関に向かう)

強盗 (ドアを閉めて) 私、お茶いいわ。

また玄関のベルが鳴る。

主婦が玄関のドアを開けると若い女が立っている——夫の情婦。

主婦 どうもお待たせしました。ちょっと取り込み中だったもんで。サ、どうぞお入り下さい。サ、サ。

と情婦を引き入れながら彼女の服で手をふく。

情婦 奥様でいらっしやいますか。

主婦 そうですけど、(手がふけたことを確認して、急によそよそしく)アノ、どちら様でしようか。

情婦 ご主人から何もお聞きになっていらっしやいません?

主婦 別に。どういうことかしら。

情婦 いいのかしら。

主婦 主人が何か不手際なことでも。

情婦 不手際ですって? そんな修飾語じゃおさまらなくてよ。

主婦 語いの不足は後で感動詞沢山使ってカバーしますから、どうぞおっしゃって。

情婦 そう。じゃ。一昨日の夜、ご主人はどこにいらっしやいましたか。

主婦 一昨日はと、……ア、出張で。

情婦 私の部屋にいました。ずうっと。それから先週の水曜日も、その前の週の水曜日も、その前の前の週の水曜日も、その前の前の前の。

主婦 そんなバカな。

情婦 一緒になるなんていってくれたりもしました。

主婦 信じられないわ。ショック。

情婦 よくある話です。私達も他の人達と同じく週刊誌のように解決しましょう。

主婦 手切れ金ね。予算外だわ。

情婦 額面についてはご相談に応じます。じっくり話し合います。失礼。(と靴を脱いで上がる)

主婦 ま、待って下さい。急にそんな。

情婦 不幸は突然やってくるものです。

主婦 あまりにも。

情婦 そして駆け足で去って行くでしょう。

主婦 クールだわ。

情婦 チリ一つ残しません。

主婦 足元を見て下さい。

情婦 無情の河でも流れてるのですか。ならば濡れないように気をつけましょう。

主婦 アリの行列が。

情婦 え？

主婦 その先に靴が二つ。

情婦 (強盗と借金取りの靴に気付く) お客様ね。でも居間には私の席ぐらいある。

主婦 アリの行列が。

情婦 きっとテレビの傍なんだわ。皆の注目の的。指をさされて、あの女だ、あの女だってね。

主婦 アリの行列が。

情婦 私は顔を伏せるの。

主婦 ドアの外に出て行く。一体どこへ行くんだろう。

情婦 いいかげんにしなさいよ！ ドアの外には何も無いわ。アリの行列はアスファルトの上で解散するだけ。そんな行列にひかれて行く程、私、絶望してないわ。

主婦 いいえ、倒れてしまいうのは、私の方です。

情婦 どういうことなの。

主婦 この先客のお二人は、あなたのお仲間なんですよ。

情婦 ええ!? そんなバカな。

主婦 そしてあなたと同じものを要求してデンと動かないのです。何というプレイボーイなん

でしよう、あの人。

情婦 ……長くなりそうね、今日は。なべ焼きうどんでもとったら？

というとき急ぎ足で居間に入ってしまった。

情婦 失礼します。もう我慢出来ないわ！

情婦、挨拶もそぞろにどんどん奥へ進む。

主婦 あ、どちらへいらっしやるんです。

情婦 お手洗いや。どこ!?

主婦 部屋を出て右側の突き当たりです。

情婦、上手のドアから退場。

借金 あの調子じゃ当分出て来ませんよ。サ、その間に片付けちゃいましょう。奥様、私達、十分話し合って理解し合えたのよ。この方も利用者なんですって。

主婦 冗談じゃないわ。気安く連帯しないでよ。ここは私の家なんですからね。

借金 私にとっちゃここは戦場だよ。敵と味方ははっきりさせなくちゃ。

主婦 そんなにはっきりさせたいならいいでしょうか。今トイレに駆け込んだ方ね、私の新しいお友達なんですけれど、婦人警官なのよ。

借金と強盗 (うまく合う) な、何だって!?

強盗 ふざけろよ。

借金 そんなことでビビると思ってんの。甘い甘い。いいから出すもん出してよ。

情婦、手をふきながら登場。

情婦 出して来たわよ。何を騒いでるの。

借金 私、やましいことなんか無いんだから！

強盗 私だってまだ何もしてないよ！

情婦 何を今さら。皆同じ仲間じゃないの。カッコつけないで全部吐いちゃいましょうよ。

(強盗に) あなた高校生？

強盗 ハ、ハイ。

情婦 フーン、女って哀れね。で、いつから？

強盗 いつからって。

情婦 いやね。このこと関係があったのはよ。

強盗 そ、そんな昔ではありません。

情婦 でしょうね。どっちから仕かけたの。あなたの方から？

強盗 ええ、どちらかという私の方から。

情婦 まあ、最近の高校生って恐いのねえ。で、貰うもん貰った？

強盗 いいえ、まだです。貰ったって！ からかってるんですか。

情婦 大分興奮してるわね。落着いて考えてどうすれば一番良いか。

借金 考えたって同じだよ。貰う額ははっきりしてるんだから。

情婦 失礼ですけど、そのお年でよくまあ。

借金 年なんか関係ないわ。

情婦 そりゃあ、アノコトにはね。で、ご主人とはどこでお知り合いになったんです。

借金 もちろん、私の会社ですよ。

情婦 何です、胸を張って。あなたには罪の意識がないのですか。

借金 ああないね。こっちは商売でやってんだ。

情婦 商売!? 奥様、こんな女にビタ一文だつてやる必要ありません！

借金 何の権利があつて、あなたは私の要求を弾圧するのか。官憲横暴だ。

情婦 訳の分らないこといってこの家を滅茶滅茶にしようっていうのね！ そうは行かないわ！（と電話器に飛びつく）

借金 オ、仲間を呼ぶつもりか。

強盗 やめて、お願い！ 私が悪かったわ。ホンノ出来心なの！（と情婦にすがりつく）

情婦 安心しなさい。なべ焼きうどんを注文するのよ。長くなるからね。奥様、何番。

主婦 五六一の五五五六。

情婦 ハイ、五六一の、五、六、五、六と。

とダイヤルを回す。

借金 売女！

情婦 何ですって!? ア、モシモシ！ こちら佐藤ですけど、なべ焼きうどん四つ！

情婦、ガチャ！ と受話器を置く。

情婦 もう一辺いってごらんなさい。

主婦 ネ、今向こうで何かいわなかった？

情婦 聞いてないわよ！ 一方的にいったんだから。

主婦 今のところ、たたみ屋よ。

情婦 たたみ屋だつてうどんぐらい作れるわよ！ オタオタしなさんな。

玄関のベルが三回鳴る。

情婦 ホラ、もう来た。

借金 ありえないだろう！ 段取りとして。

主婦 どうしたんだろう。たたみ屋さんですか、うどん屋さんですか。どちらにしろ非現実的ですよ。

といいながら玄関に出る。

情婦 目立ちたいのよ。ベル三回も鳴らしちゃってさ。

と居間のドアを閉める。

また玄関のベルが三回鳴る。

主婦 何がキッカケで突然。

と玄関のドアを開けると若い女が立っている——バレーボールサークルの勧誘員。

サークル ちわー！ やっと開けてくれましたね。

主婦 誰、あんた。

サークル 一人で淋しくありませんか。

主婦 いいえ、今お友達が多勢来てるから。

サークル でもいつもそうとは限らない。

主婦 もちろん。毎日こんなじゃあ生きて行けないよ。

サークル といういつも一人でも一人で何してるんですか。つまらないでしょう。

主婦 余計なお世話だわ。私は一人で結構楽しんでます。

サークル 最近主婦の自殺も増えてるんですってね。

主婦 それが私と何の関係があるの。

サークル 淋しいんですよ、皆。話し相手が欲しいんだなあ。

主婦 お帰り下さい。遊園地は向こうです。

とサークルを外に押し出そうとするが彼女は動かない。

サークル 私達のサークルに入りませんか。

主婦 考えておきます。さよなら。

サークル バレーボールなんですすよ。

と回転レシーブなどする。

サークル 体にいいですよ。

主婦 そうね。早く出てって。

サークル バレーボールやりながら色んなこと話し合ってます。家庭のこと、教育のこと、社会のこと、ファッションのこと。

主婦 はあ、あなたがあの有名なしつこいサークル勧誘員ね。

サークル 皆入ってますよ。どんどん輪が広がっているんです。

主婦 私はそんな輪の中には入りたくはありませんわ。

サークル ホラ、今の言葉の中に輪が六つもあった。あなたは無意識のうちに輪を求めているんだ。

主婦 こじつけですわ。

サークル こじつけです輪！ ホラまた一つ。

主婦 分らない人ですわね、私は。

サークル ワー、四つも。

主婦 知りませんわウウ。

サークル ハハハ、とうとう負け犬の遠吠えが出ましたね。ワウー。

主婦 降参よ、入るわ。

サークル ワウー！

主婦 ただし、今この居間の中にいる三人のお友達も一緒ね。

サークル ワウウー。

と喜んで回転レシーブをする。

主婦 喜ぶのはまだ早いわ。彼女らは大変な個人主義者で偏屈なの。もうお手上げ。

サークル フムフム、それはいかん。

主婦 説得出来るかしら。

サークル やりましょう。私はこれまで、何百人もの個人主義者をサークル愛好家に、孤独を愛する人間を八方美人のお調子者に、自閉症を露出狂に変えて来ました。

と上がろうとするのを主婦はとめる。

主婦 待って。いきなりあなたが入って来たら血を見るだけだわ。あらかじめあちらの人達に

心の準備をさせておかなければ。

サークル 武装させるんですか。私は丸腰だ。

主婦 心のトピラをホンノ少し開けて上げたいの。その方があなたも攻め易いはずよ。

サークル 分りました。玄関は冷えるが、この輪の中に入っていれば暖かいです。

とってポケットから輪を出して広げ、その中に座わる。

主婦 慣れてるのね。じゃ。

主婦、ドアを開けて居間に入る。

強盗 たたみ屋さん？

主婦、ドアを閉めて玄関側から離れる。

主婦 たたみ屋じゃないのよ。サークルの勧誘。

強盗 え、ワ、何の？

主婦 万引きグループのよ。

強盗と借金と情婦 ええ!?

主婦 最近はやってるでしょう。主婦がグループ作って。

借金 それに入れていろいろの？

主婦 しつこいのよ。入るまではここを動かないって座わり込んで。

情婦 警察呼んだら。

借金 ハハハ、今の冗談面白い。バカバカしくて。

情婦 何よ。何が面白いのよ。

主婦 ちょ、ちょっと待って。警察に届けるのは簡単よ。でもそれじゃあまりにも段取り的過ぎるわ。

強盗 そうだよ。何でも警察にまかせちゃ、ゴメンナサイの立つ瀬がないじゃん。

主婦 そこであなた達にお願いがあるの。彼女を説得してぜひとも万引きグループからやめさせて欲しいのよ。

借金 OK、まかしといて。ぜひやるべきだわ。私のように無学な女でも人の道と横断歩道は渡れるのなもの。

強盗 私には出来ないぞ。そんな資格なんかない。ここは脇役で通そう。

主婦 何をいうの。あなたのような若い人の意見が一番効くのよ。

強盗 からかわないで。今落ち込んでんだから。

情婦 ネ(借金を示して)こんな底辺の女でも人を諭すことができるのよ。ましてあなたは。

借金 底辺の女とは何よ!

主婦 押えて押えて。

借金 撤回しろ! 主観的で無節操な規定は許さないぞ。

情婦 一般常識だよ、そんなこと。

借金 何!? 論理的に説明してみろ。

主婦 まあまあ。

強盗 ワー、私と関係ないところで議論が進められている。もう立ちなおれないわ。

借金 勇気を出して。今こそ社会問題研究会よ。

強盗 そりゃあおたくは説教の名人よ。張り切ってくれるわねえ。

情婦 この女が説教の名人ですって? ハハハ、世の中かわったもんね。ついていけないわ。

借金 あくまで挑発する気だな、君は。

情婦 ホラホラつけまつげが落ちそう。

借金 別の問題だろう、そりゃあ! (と情婦につかみかかる)

情婦 あんたのような女にはそれが本質よ。それのみ!

二人、もみ合う。

主婦 やめてよ。ここはヘルセンタージャないわ。(ととめようとする)

借金 この女が、この女がよオ。

情婦 先に手を出すのはいつもてめえらだ。

主婦と強盗が中に入るとめようとするが、いつの間にかサークルも加わっている。

サークル 分った、分った。もういい。

と借金と情婦を分けて握手させる。

主婦 ああ! あんたいつの間に。

サークル やっぱり一人で輪の中に閉じ込もってちゃいけないんですね。こうして皆の輪の中に入って体ごとぶつかっていかなければ。

主婦 私達の話、聞いてたの?

サークル 部屋に入ったらもう話し合いの段階は越えていましたよ。

主婦 じゃ話の内容は。

サークル 聞かなくても分ってます。仲間が欲しいんですよ、結局は。それにつきます。図星でしょう。サ、グズグズしないで私達の仲間に入った入った。笑顔が待ってますよオ。ハハハ。

一同、急にサークルを敬遠し出す。

サークル ハハハ、……ハハハ……ハハハ……空しいなあ。さっきのエネルギーはどうしたんです。あれだけの活気があればすぐに私達の中に入れてもプレイ出来ますよ。

借金 プレイですって？ あなた方のやっけることはプレイと呼ぶんですか。

サークル でなきゃ何です。勝負ですか。それほど堅苦しく考えることもないでしょう。

情婦 つまり、気軽に出来るのね。

サークル ええ、あなたもやりませんか。

情婦 そ、そばへ寄らないで。いくら暇があるからといってそんなことまでしたくないわ。

借金 あなたが逃げちゃ世の中おしまいでしょう。(サークルに) どういうキッカケでそんな

道に入ったのか知りませんが、おやめになった方がいいんじゃないやありません。

サークル やめる？ こんな楽しいことを。

借金 楽しいですって？ そりゃあ楽しいでしょうよ。お金を使わないんですからね。

サークル だって金使えばいいってもんじゃないでしょう。

借金 恐ろしい考えだわ。説得するのは無理ね。

強盗 アノ、多勢でやるって大変でしょう。

サークル そうですね。難しい面もあるけれど結構やりがいがありますよ。チームプレイの醍醐味ってとこですか。

強盗 いつものあたりでやるんですか。スーパールとか。

サークル ウン、スーパールの空地も駐車場が増えるんですどうも。

強盗 空地が重要なんですか。面白いなあ。それからデパートなんかは。

サークル アダメダメ。屋上も狭くて。

強盗 成程ね。難しいんだなあ。

借金 さすがは社会問題研究会だわ。

サークル 研究するだけじゃ面白くないですよ。実際にやってみなくちゃ。(と借金にグイと近付く)

借金 結構です。この年で冒険したくありませんから。

サークル まだまだ動けるよ、この身体は。(と借金の身体を触る)

借金 けがらわしい！(とサークルを突き飛ばす)

強盗 何をしますか。それが教育ですか。

サークル いやいいんだ。無理ありません。……実は、私も昔はこうだったんですから。自闭症でそううつ病で、人が信じられなくてね。いつも伏し目がちに自分の靴の先だけを見ていたものでした。靴は無口だ。無口な靴に語りかけても何もかえって来ない。だから私もよけい無口になる。下を向いていると靴が何を踏んでいるのか良く分る。しかし私自身が踏まれていることには気付かないのだ。私は私が踏んだものを愛する故に増々前かがみになる。前かがみになって、地面と私の距離を支配して行く。靴の先が大きくなる。そしていつか私自身が靴になった時、私は静かに靴を脱いで行く。

強盗 脱げるかしら、私にも靴が脱げるかしら。

サークル ああ脱げるとも。脱いで行くんだ。我々にはあまりにも長く靴をはき過ぎた。もう靴の底には何も無いのだよ。

情婦 ハダシで歩くには、この人生の道は痛過ぎる。

サークル だから仲間を作るんです。多勢で踏み固めるんです。

玄関のベルが鳴る。

主婦 たたみ屋かしら。

サークル ハダシになったからといって、たたみ屋に頼ってはいけない。捨てられた靴が嫉妬します。

主婦 でもなべ焼きうどん注文したから。

と玄関に出る。

サークル やれやれ、出前の兄さんの無神経さにはかなわないや。

と居間のドアを閉める。

また玄関のベルが鳴る。

主婦 ハイ、ごくろうさん。

とドアを開ける。そこにふるしきを抱えて立っていたのはみすばらしいなりをした中年の女である——押売り。

押売り どぶに足踏みはずしちまってね。ひどい所だ。私の住んでいる街は。

主婦 なべ焼きうどんじゃないの？

押売り 正義はあると思いますか、奥さん。

主婦 え？ ええ、あると思いますわ。でもどぶ板までは届いていないでしょう。

押売り それじゃ不公平だ。正義の味方は不公平の味方と同義語ですか。

主婦 一体何の用なの。

押売り 濡れた涙は風がかわかしてくれませう。ハイ。しかし、かわいた涙は天使もふきとるこ
とが出来ない。

主婦 結局何が言いたいの。

押売り このせっけんで洗い落として下さい。ハイ、そしてこのてぬぐいでふいて、時にはゴムヒモを取り換えて下さい。また鉛筆も使われたそうにキヨツケします。ハイ。(とふるしき包みから売り物を出す)

主婦 あんた、押売り？

押売り きのう、ムショから出て来たばかりです。へい。

主婦 随分芝居がうまいじゃない。当り役ね。

押売り これが芝居なら世の中シェイクスピアになっちゃうでしょう。

主婦 とにかく間に合ってるわ。また今度ね。

押売り ここまで喋らせておいて、そりゃあせつねえってもんでねえか。もうちっと対応の仕方があるそうだ。へい。

主婦 そんなものスパーで安く買えるわ。

押売り スパーばかり頼つてると今にスパーに裏切られるだよ。

主婦 スパーに裏切られる時は、私達の生活が全て否定される時です。その時はもう、物を売ったり買ったりするようなことはなくなるでしょう。

押売り その時までせいぜい楽しみなさるがいい。ホラ、子供のおもちゃもドッサリ。(とふろしきの中身をぶちまける)

主婦 迫力ねえ。

押売り もう必死ですから。

主婦、ミニカーや人形やピストルなどを取ってみる。

主婦 ウーン、大分精巧に出来てるわね。これなんか本物みたい。

とピストルを押売りに突きつける。

押売り、思わずホールドアップ。

押売り ヒー、お助け。

主婦 あんたの芝居も本物ソックリ。

押売り からかわねえで、どうかご慈悲を。

主婦 今この中で有閑マダムが暇持て余して芝居をやっているのよ。

押売り へい、そりゃ結構なことで。私らとは別の世界だが。

主婦 彼女達、買ってくれないかしら。

押売り 取り次いで下せえ。取り次いで。

主婦 彼女達ノリやすいのよね。だからのせっちゃえばこっちのもんだけど。

押売り ホウ。

主婦 このピストルで。

押売り フェ。

主婦 手を上げろ。金を出せ。

押売り ヒェー。

主婦 とあんたが私に。

押売り それはいけない。それだけは。

主婦 芝居よ。彼女達も分るわ。

押売り だろうね。しかし私には才能がない。

主婦 全部買ってくれるかもよ。

押売り ブルイ、ブルイよあんた。どうしても私を舞台に乗せたいんだろう。

主婦 た、助けて下さい。命ばかりは。

とホールドアップする。

押売り (思わず) よーしいい子だ。おとなしくしな。

主婦 うまいじゃない。

押売り え、いやです、恥ずかしい。もう、下を向いてしまいそうです。(と極端に恥ずかし

がる)

主婦 ダメダメ。続けて。(大声で) キャー!

押売り ウワー!

とビックリするが主婦の声を聞いた情婦が居間のドアを開けてしまったので本能的にピストルを構える。

情婦 どうしたの!

主婦 ゴ、強盗よ。騒がないで。武器を持ってるの。

押売り (思わず) うめえもんだな。

主婦、肘で押売りをつつく。

押売り ハ、騒ぐなこれが見えねえか

強盗 ホ、本式じゃん。

押売り サ、歓迎してもらおうか。

主婦 み、皆、落着いて。な、何でもないのよ。すぐ済むわ。

一同、居間に入る。

借金 あ、あなた、何ですか。やめなさい。

押売り うるせい! 俺はねずみ火花だ。

強盗 先生、刺激しない方がいいよ。この目は本気なんだから。

押売り 本気だって、フフフ。

主婦 ウワー、ウワー。

サークル 我慢、我慢。(押売りに) 靴ぐらい脱いだらどうかね。楽になるよ。

押売り え？ あら、どうも。

主婦 ウワー、ウワー。

押売り (ハッと成って) しゃらくせえ俺達に礼儀なんかあるけえ。

サークル 淋しいんだよ。淋しいんだよ君は。何でも打ちあけてくれ。きつと力になる。

押売り そうだね。淋しいのかもね。

主婦 ウワー、ウワー。(と倒れる)

借金 見なさい。この人恐怖のあまり失神しちゃったじゃない。

押売り 真に迫ってるなあ。

主婦 ウワー、ウワー。(と叫んでまた失神)

押売り ヘン、人が一人や二人気絶したぐらいでそれが何だい。

強盗 (腹を押えて) アー、おながが、おながが！ (とうめく)

情婦 どうしたの。

強盗 く、苦しい。ウーン。

押売り 本当に痛いのかい。(と心配して近寄る)

強盗 タア。

と空手で押売りのピストルを払い落とす。

押売り 痛い！ やり過ぎじゃないの。

押売り、ピストルを拾おうとするが強盗、飛びついて奪おうとする。

押売り な、何だよオ。

借金 危い！ 離れなさい、離れなさい！

強盗 くそ、かしな！

押売り 分ったよ。あんたの番だ。交代。

主婦 ウワー、ウワー！

のかけ声も空しくピストルは強盗の手に入る。

強盗 皆、手を上げな！ 芝居は終ったんだ。

押売り それでかい。矛盾してるよ。

強盗 うるさい！ もう沢山よ。私、帰る。サ、金を出すんだ。

借金 それが社会問題研究会!?

サークル 淋しいんだよ。淋しいんだよ、君は！

情婦 出直しは効くよ。やけにならないで。ご主人には私がよく話して上げるから！

押売り 皆、やるねえ。

借金 あんたが持ち込んだ武器よ。責任持って取り返しなさい。

押売り もう終り？ サ、お嬢さん。よこしなさい。それは商売道具だ。

強盗 マジだよ！ 近付かないで。

押売り 箱に詰めて上げるからさ。

情婦 あんたに渡す訳ないでしょう。(強盗に) しっかりしろよオ。サ、頂戴。

強盗 うつよ、うつよ。

情婦 (近付いて) うちなさい。うちなさい。あなたのこれからの人生を背負ってひきがねを引きなさい。

強盗 殺されたいの！

押売り 絶好調じゃん。

情婦 人のことはどうでもいいの。あなた自身の問題よ。

強盗 私はもういないんだ。ここにはいないんだよ。

情婦 ではどこにいるのですか。薄紅色の消え入りそうな森の向こうにですか。オブラートに包まれた物理学の中にですか。それとも。

強盗 明日から期末試験じゃないか。田中と吉野が図書館で待ってんだ。

情婦 嘘だわ！

強盗 りえちゃんと問題集買いに行くんだ。

情婦 嘘よ！

強盗 恵子にノート借りなくちゃ。

情婦 嘘！

強盗 今井くんは電話して試験範囲聞くの。たっちゃんに時間割を、篠原に数学の……どこにもいない、私はどこにもいないんだ。

と崩折れる。情婦、優しく抱くようにしてピストルを取る。

情婦 あなたには重過ぎたようね。でも私には丁度いい。

情婦、皆にピストルを向ける。

押売り アレ、まだやんの？

情婦 サ、結着をつけましょう。

押売り 何かこのピストル人気あるねえ。そんなに欲しいなら買ったらどう。

情婦 いくらなの。

押売り 九百五十円。

借金 ふざけてる場合か！

と押売りを蹴飛ばす。

押売り ハハハ、いいさまだ。(と笑って痛がる)

情婦 本当に愛されたのは私だけなんだ。

借金 何を訳の分らないことを。

情婦 一番優遇されてしかるべきなのよ。

サークル その考えは間違ってる。皆一緒だ。淋しいんだよ君は、淋しいんだよ。

情婦 あんたは病氣よ。サア、皆帰って！ 後は私とこの奥さんとの取り引きなんですから。

……帰って！

押売り 帰れて、膝まで蹴飛ばされて私の立場はどうなるんですか。

情婦 あなたはもうこのピストルを失った時からこの家にいる権利を失ったのよ。

押売り 冗談じゃない。そんなの一個ぐらいで。

情婦 近付かないで！ うつわよ。本当に。

押売り いいかげんにしてよ！ こっちだって忙しいんだから。(とさらに近付く)

情婦 いやよ。これが見えないの！

押売り そんなのいくらでもあるさ。

とポケットからピストルを出した途端、情婦は思わず発砲——ダーンとリアルな音

がして押売りは腹を押えてよろける。

押売り ウ、どうだい。これで満足したろう。

主婦 嘘みたい！

借金 何もここまで。

情婦 正当防衛よ。でなきゃ私がやられてたもの。

押売り、スクツとまっすぐ立ち上がる。

押売り サ、もうお終りだ。

とスタスタと歩いて情婦からピストルを取り上げる。

一同、呆然。

押売り いい音してるでしょう。買ってくれる？

強盗 そ、それ、おもちゃなの。

押売り なのって。それはないだろう。知ってたくせに。

借金 誰が知ってたのよ。

押売り だってこの奥さんが……あんた達、芝居やってたんでしょ？

情婦 芝居！これが芝居ですって！冗談じゃないわ。これは真実よ。人生そのものだわ。

押売り そんなバカな！この奥さんが全部買ってくれるからって。

主婦 変ないいがかりつけないで下さい。いきなり入って来てビストル突きつけたくせに。

押売り ア、そ、それはひどいよ。あんたが今有閑マダムが芝居やってるからって。

借金 有閑マダムですって？私はれっきとした金融業者よ。

強盗 金融業者？先生じゃなかったの？

借金 だからそれは昔の夢。で今日は。

主婦 誰でも夢を見る権利があるわ。

借金 ローンの取り立てに来たの。

情婦 じゃ、ご主人とは。

主婦 主人を登場させないで。恥ずかしがり屋なの。

押売り 逆にあんたは恥知らずかい。

情婦 良いカッパルね。

サークル 何て言い方だ。君達には思いやりがないのか。

借金 どきな。万引きの仕事じゃない。

サークル 誰が万引きなんです。

借金 (主婦を示し) こいつに聞けよ。

主婦 気は確か？ここは家庭よ。

押売り たいした役者だよ。文学になる。

サークル 私は、あなた方が偏屈で個人主義者と聞いたから私達の。

主婦 人類は皆個人主義者よ。

サークル 無茶苦茶だ。そんなんでバレーボールが出来ますか。

強盗 バレーボールは体育の先生が教えてくれるわ。でも万引きはあなたしか。

主婦 ア！この娘、強盗です！つかまえて下さい！ひどいんです。ナイフで。

サークル 私が万引きで、この高校生が強盗ですか。ハハハ、ブチ殺してやる！

主婦 何興奮してるの。人を呼ぶわよ。

サークル 上等じゃねえか。呼んでくれい。

押売り 我々は正しい。五対一だ。

主婦 あんた達、私の家庭を破壊する気？

情婦 もうこわれているわ。ずっと前から。

主婦 出てって！

借金 出て行くのはあんたさ。

押売り あんたはこの家の奥さんじゃない。

主婦 そ、そんな！これは私のテレビです！これは私のソファです！これは私のテーブルです！これは私の電話です！これは私の、これは私の、私の。

サークル もう誰も君の話を聞いてないよ。
主婦 分ったわ！

主婦、本能的に電話にすがってダイヤルを回す。

強盗 どこへかけるの。

主婦 決ってるじゃないの……モシモシ、佐藤ですけどお願いします……モシモシ、あなた？
……私、ネエ、私は私よね、アハ、おかしい。でも証明しましょう。ハイ、あなたの出番です。ちょっと待って。

主婦、受話器を一同に向ける。

主婦 主人です。出て下さい。私がこの家の主婦であることを確認して下さい……サ、早く……何をぐずぐずしてるんですか。早く誰か出て主人と話して下さい。

一同、譲り合っているが情婦が受話器を取る。

情婦 モシモシ……切れてるわ。

主婦 ぐずぐずしてるからよ！

と情婦から受話器を引たくってダイヤルを回す。

主婦 モシモシ……マ、たびたびすいません、佐藤ですけど……モシモシ、あなた？……どうして切っちゃったのよオ、忙しい？ バカ、こっちはそれどころじゃないのよ。強盗が入ったんだから、それから借金取りも……え？ 嘘だって？ 今出すわよ。切らないでね。

とまた受話器を一同につきつける。

主婦 サ、早く、誰でもいいから。

今度は借金取りが受話器を取る。

借金 モシモシ、モシモシ！……切れる。

主婦 だから早くって言ったでしょう!!

と受話器を引たくってまたダイヤルを回す。

主婦 モシモシ……ア、あなた？……分った、分った。今度真面目にね。

と一同に受話器を向ける。

主婦 ホラよ。

今度は強盗が受話器をとる。

強盗 モシモシ！ モシモシ……出ない。

主婦 どうかしてるんだわ、あの人。

と受話器を奪ってダイヤルを回す。

押売り ホントにかけてるのかね。

主婦 うるさい！ モシモシ……バカ！ あんたおかしいんじゃない？

強盗と！ 借金取り

と！ あんたの女と！……だから出すわよ！ いい！

とまた一同に受話器を向ける。

主婦 ホレ。

サークルが受話器をとる。

サークル モシモ……切れてる。

主婦 狂ってるわ、完全に！

主婦、サークルから受話器を奪って狂ったようにダイヤルを回す。

—幕